

# 甲子園に見た安積魂

91期 石川高等学校校長 田中 誠

## 1. はじめに

甲子園出場に際し、多大の御支援ありがとうございました。

甲子園出場 安積の長い歴史の中で評価されたもの

OBの皆さんと喜び共有できて幸せ

甲子園球場での入場行進

安積の名がよばれることをいつもイメージしていた…現実となり大きな感動

紫に染まったあのアルプスは本当に凄かった。

「苦しくなったらアルプスを見よ」

アルプスに勇気づけられ、全力を出し切れた。

アルプスの音 銀傘にこだまし背中を押してくる。

甲子園は魔物というけれど、「至福の時」

## 2. 自己紹介(なぜ、高校の教員になったのか)と指導方針

現石川高等学校校長 地歴公民の教師

高校野球の指導者になりたい。自分を成長させてくれた野球を通じて恩返しを

教員としての指導にこだわる 地歴公民(社会)の教員

高校時代ー野球部で投手兼4番

うまいつもりで入学 先輩のプレーに衝撃を受ける。

1年時の夏の大会を経て、本気モードに(高校野球の魅力にとりつかれる)

通学方法の変化(日和田→安積高校10.5km)

1年入学当初 電車・バス

1年夏以降 自転車

2年夏以降 トレーニングのため、朝夕ランニングで通学

(電信柱1本ずつ目標に帰る)

トレーニング効果 実はメンタル面での影響大

3年時転勤した部長がいつも車から顔を出して走っている私を応援→励みに

練習試合で大敗→初めて監督に相談 勇気をいただく

最後の夏の大会 自分の力出し切ることができた。→高校野球に恩返しを

自分も高校野球の指導者になりたい

…今も指導の原点

- ・ 教員として指導者として大事にしたいこと

モットー「本気で楽しく」

目標「甲子園で校歌を歌う」

本物志向

- ・ 常に心がけていること 力を出し切ること

## 生徒の身になって考える

\* 「子どもたちの夢・希望・笑顔のために」…職員会議タイトル

すべての選手が戦力

チーム内での役割任ずる

(マネージャーの役割と高い位置づけ 一年生系の教育の浸透 キャッチャーチーム)

～チーム全体での意識の高さ・集中力が武器～

・ 保護者へ

目先のことだけにこだわりすぎず、長期的な視点で生徒の成長を促す。

(悪い点の指摘のみでなく、良い点を指摘)ともに協力して教育を

・ 指導に当たって

口うるさい親父 but 個人の特性考慮

**「ならぬものはならぬ」** 指導にはタイミング重要

一人一人受け止め方違う

個に応じた対応を(負荷をかけた方が良いタイプ)

(誉めて成長を促すタイプ)

(ほおっておいた方が良いタイプ)

・ マネジメントの考え方

学校の一教員として、一生徒として あたりまえのことをあたりまえに

皆から愛される組織に(野球部に)

・ 自分自身が勉強して最高のものを生徒に提供

練習試合 強くて刺激的な相手と

各種技術講習会 大学の練習参加及び見学

トレーニング SAQ ウェイトトレーニング等

栄養学 (野球食:海老久美子氏への指示)

メンタルトレーニング(白石豊氏、布施努氏)

プロ野球キャンプ見学 (全球団見学 沖縄、鹿児島、宮崎、日向、高知)

オフシーズン 各種研修会等への参加

3. 「甲子園で校歌を歌うために」

2001年 初めての21世紀枠で甲子園出場

当時 この制度は私たちのためにある制度かと感じた。

・ 選ばれるにあたって

選抜 県大会ベスト8以上 積年の努力 ハンディ乗り越えて 模範校

前年の2000年春の県大会で日大東北、聖光学院、福島商業等破り22年ぶり優勝

主戦投手が残る

ディフェンス力評価

・ ハンディ乗り越えて

文武両道

真の意味で(個人一人一人が)文武両道は全国的にもめずらしい。

高野連関係者から多くの激励

チームとしては意識の改革進む

例： 私立をやめて1年遅れて入学した生徒の存在

2年までしかプレーできないが、コーチとして3年まで活動→精神的支柱

： 男子マネージャーの存在 みんなが尊重

質を重んじた練習

→ 意識の高さ…練習の質の向上 (なぜこの練習をするのか考える)

→ 私立野球強豪校に対しても臆することなく戦う

・ 投攻守走 バランス必要

投 複数の投手養成 バッテリー強化

攻撃 良い投手への対応 攻撃のバリエーション

(最低限やるべきこと、個人としてできること考える)

\* ファールを打てること、ゴロが転がせることも武器

守備 無駄な失点をやらない

(組織的な守り、守備位置へのこだわり)

走 機動力の展開

(専門家に学び、走力徹底して鍛える)

・ 甲子園で戦うための準備

① まずメンタル なぜ選ばれたのか…長い歴史の中で、日常が評価されたから

→ **堂々と おごることなく 淡々と**

(誹謗、中傷も 写真週刊誌等の否定的観点からの取材)

大会中 選手の携帯電話毎晩預かる

取材への配慮のお願い

(地元マスコミの協力)

過度のプレッシャーから選手を守る必要 (特にキャプテン)

② 自分たちの力を出すことに集中

**自分たちはどんな野球をするのか、再確認** (自分たちができることをやる)

**一人一人が自分の役割を**(短期の目標設定 到達可能な最大限の目標)

甲子園対策の確認

日頃から全力疾走、素早いプレー、声のみでなくゼスチャーを使った指示等

(当日だけやろうと思ってもできない)

速いボールへの対応

マシンで目を慣らし、社会人野球で活躍したOBの練習参加 練習試合

球場の広さへの対応

冬場 多くの人々の協力で練習環境整える

特設屋内練習場、開成山球場の使用、甲子園前静岡遠征

(それまでビニルハウスのみ)

but 学校の日程優先 温かい地での長期のキャンプ等無し  
(日常が評価されての甲子園)

③ コンディショニングの考え方の浸透

身体作りはチームの基本

(SAQ、ウェイトトレーニング、栄養学等 ケガ、病気をしないための配慮等)

ピーキング(日々の練習や練習試合の目的の確認)

保護者の協力

④ 相手チーム分析 (地方大会ビデオ等入手 コーチによる分析)

過度に分析結果を伝えすぎない。

・ 甲子園での戦い

対金沢高校(北信越大会優勝校) 1-5 敗戦

堂々とした戦い 大会事務局より評価 「21世紀枠は成功した」

次の日甲子園貴賓室へ呼ばれる。

試合前のマスコミ対策 15分の取材

(ストレッチ、呼吸法主体必要以上に高ぶらせない)

\* 整列時のカメラマン一斉に 試合前牧野会長がベンチにきて激励

球場に入っの全力疾走、素早い準備、プレー

7000人の大応援団 多くの勇気いただく…**「苦しくなったらアルプスを見よ」**

～甲子園は魔物というけれどあたたかく迎入れてくれた～

**至福の時** 完全燃焼 1時間41分

4. 甲子園からの贈り物

安積の名、全国へ 有力校からの練習試合の申し込み

安積の一体化

2001年から男女共学ではあったが甲子園に行きたいから安積を選ぶ そのために勉強を頑張るとい生徒増える。→意識の高さ

その後、県大会ベスト8、ベスト4相次ぐ

屋内練習場の完成(人工芝) バス購入 (OBの皆さまの尽力)

他の部と共有し、学校の活性化へ

5. 終わりに

今後の安積への期待

武器は勝利への意識の高さと集中力

そして安積を愛する人たちの応援

みんなの力を結集して **再び甲子園へ**

以上